

# 幼 児 の 性 教 育

小愛育研究部

平 井 信 義

## 一、序 論

子供の性教育を如何にしたらいか？ 此の問題は現在思春期の子供を持つてゐる親達の共通な悩みであるが、幼年期の子供を持つてゐる親達は、一體この種の問題をどう考へてゐるであろうか？ 之が私の今回の調査の第一のねらいである。

次に両親が、子供から性に關する質問や行動をどの程度に經驗してゐるか、之が第二のねらいである。

第三に子供から性に關する質問や行動を經驗したときに、両親はどう云う態度に出たか？ どう云う教育の方法を取つたか？ と云ふことである。

第四に、以上のことを經驗しない両親が、將來をうした經驗を持つたときにどう云う態度に出るか？

之らを通じて、両親の性に對する考へ方、性教育に對する態度の實態を知り、同時に子供の性意識及び性生活の一端を知つて、それを批判しようと試みたのである。

## 二、研究方法に對する方針

性教育の基礎として第一に、子供の性意識の發達が究められねばならぬ。行動の發達や言語の發達、或は身體發育と同様な意味に於て、この點フロイドの洞察は明快にその發達過程を展開してゐるが、多くの子供と起居を共にしている我々にとつては、無意識と意識の境界線上に幾多の疑點があり、且つ性の概念規定に不安を持たざるを得ない。従つて性急な解釈に陥らない處の實態調査が必要であり、又生物學的に血中の性ホルモンの消長など更に詳細な研究が行われねばならぬ。その際個人差には充分留意される必要がある。

第二に社會の性的刺激閾の問題であるが、時代により、社會層によりその閾の高低には著しい差がある。閾の高低により性意識の發達は、促進又は抑制される。又、刺激の強さにより、索引又は反撥が行われる。それが各年齢と性意識の發達段階とが織りなされて、様々な表現を見るのである。

第三に教育者の問題で、その人の性に對する知識内容と態

度とが被教育者の性意識の發達に大きな影響を與える。幼児期に於ては教育者が兩親である場合が多いから、一層兩親のそれは問われなければならない。一般に兩親はこの點で極めて貧弱であり、問題が極めて多い。

第四に、以上のことから性教育が他の教育と異つた特殊性を有するか否か、有するとすれば如何なる點であらうか、と云う問題が上る。歴史的に見ても社會的にみても、性の現象に關する事項が不潔不淨として蔭蔽されて來た、その原因はどこにあるのであろうか。その考察は是非必要となる。

第五に性教育の方法と云うことになる。之は以上の四項目についてはつきりした見解の上に立つて行われねばならぬのに、從來は單なる個人經驗の範圍で云われていた處に無理があつた。或は早教育を唱え、或は蔭蔽教育に走る、など。

以上によつて我々は正しい性教育の方式を樹てなければならず、從來共非常に難しいと云われ、投げ遣りにされ、而も時代の波は強く子供たちの身邊に押寄せて來ている今日、之が早急に望まれるのである。私の調査はその第一歩として行われた。

### 三、研究 方法

今回の調査は質問紙法により、年齢五歳及び六歳の幼児につき、常々私が健康管理を行つてゐる二つの幼稚園児六十七名の母親と、二十名の同年令の保育所児の母親の回答を整理したもので、全部無記名とした。調査期間は昭和二十三年十

一月である。

### 四、總 括

在籍児に對する回答者の數は平均六九%に該當する。母親の回答がその八六%を占めてゐるが、兩親で相談しての回答が八%あり、後者は皆性教育について眞面目な考えと積極的な意見が書かれてあつた。但し保育所では調査用紙を持参しないものが四一%あつた中、保育母がそれを訊すと、「くだらないことを聞くから、父ちゃんが出さなくていい」と云つたよ」と云う答があつたのは、性問題を下劣なことゝ考えている證據を得たことになるが、そんな保育所にこそ色々な問題がある。

問題としては總合的な三つの問題を出した。(1)幼児の性教育について考えた事がありますか?——然り五〇%、(2)今迄に子供から性に關する質問をうけたことがありますか?——然り三二%、(3)今迄に子供の性に關する行爲をみたことがありますか?——然り八%。

次に經驗の具體的な問題につき、五つの問を出した。(4)子供が赤ちやんはどこから生れるのと問うたとき——經驗者は四六・五%。その内「ぼんぼんが割れてとごま化す」者が六三・八%、「假え話をする」が一六・七%、「あとでと云い逃れる」が五%——大部分がごま化すか云い逃れるのがその教育態度である。「ありのまゝ」と云うものが七・五%あつたが、その内容を調査し得なかつたのは手落であつた。

未だ経験しない両親の回答は、「假え話」が最も多く三九・一%、「ぼんぼんが割れてとごま化す」が三四・七%、「子供がきくものでない」「あとでと云い逃れる」が一%——この場合にも積極的な意見は見出せなかつた。

(5)動物の交尾を共に見たときに、——経験者は一六・二%その中「喧嘩と云つてごま化す」が三〇%、「急いで追う」「子供を連れ去る」が三〇%、「黙っている」「子供がきくものでない」と云うが一・一%。——之を利用して性教育に資したものは一名もなかつた。

経験しない両親の意見も大同小異である。

(6)子供がおちんちんなど局所をいじつてゐる時——経験者は三八・八%。「口やかましく注意する」三三・三%、「こわい病氣になるとおどす」一六・六%、「汚いから」一五・四%。「黙つて他の遊びに誘う」が二〇・五%あり、局所が大切なところであると教育している者は一名もなかつた。

経験のない母親の意見は、「こわい病氣」「口やかましく」の二つが五一%、「黙つて」が三二・七%で、その他、「かゆい所の手當」「ズボンにボケツトをつけぬ注意」などの回答があつた。

(7)兄弟やお友達と性的な遊びを（お医者ごっこ、産婆ごっこ）をしているとき——一三・四%の経験者。——「叱つて二度とさせぬ様にする」五〇%、「黙つて他の遊びを誘う」二〇%、「放つておく」一〇%。

遊びの種類は、お医者ごっこが多く、その際に局所に興味

を持つこと、或は年上の者からいたづらされるのが書かれてあつた。この際に子供がどれ程の性的意識をもつて、之らの遊びに従つてゐるかが問題であるが、強い意識をもつて遊びを主導するものと、無自覺に遊びに従うものとが考えられる。

回答にはなかつたが、T保育所の母親の話では、自家に飼つてある兎の交尾の眞似を子供がしてゐたと云ふのがあつた。母親は怒つて子供を叱り、兎を殺してしまつた、と云う大事件になつた。又、隣の子供と立つて性交の眞似をしているのを見て、息の根が止り、直ちに打擲したと云う訴えもあつた。子供のそうした模倣が、性的意識を伴つてゐたか否か？性教育の方法としては劣等なものである。

未経験の母親の回答には、「黙つて他の遊びに誘う」が五四・一%で非常に多かつたが、性的遊戯の内容を知らないことの爲も考えられる。他は「叱つて二度とさせぬ」で三六・一%を占めていた。

(8)子供が親の局所を見て質問したり、興味を持った時に、——「見ぬ様にかくす」「下品なことをしてはいけないと云う」が四〇%あり、「黙つておく」が一四・三%、「それを利用して生殖を説明する」が一四・三%でこの中「體の形について大人になるとかうなるとはつきり説明した」と云う回答があつた。

將來経験したときには、「見ぬ様にかくす」「下品なことをしてはいけないと云う」「黙つておく」が八八・八%に及

## 批評と紹介

### 副島ハマ氏の近著三つ

本誌に度々玉稿を載いてゐる副島ハマ氏（厚生省児童局保育課）によりこのたび左の三書が公にされた。

#### ▲幼児の繪畫と製作

從來こうした實際をも含めた幼児の繪畫と製作を體系づけたものは殆んどない様に思う。その意味でわが保育界に大いに異彩を放つもの、敢て保育関係者に推薦する（定價二二〇圓・巖松堂發行）

#### ▲保母ノート第五集（保育のあり方）

私達は幼き子らに凡ての希望を投げかける。將來を背負ふ幼き子らには私達の悲しき過去のわだちをふませたくない。その爲には從來と違つた幼児教育——保育の方法があるべきである。極短くまとめられたこの書は保育の在り方に一應の示唆を與へるものである。自由保育に熱心なる保母さん方に一讀をすゝめる（定價五〇圓・日本社會事業協會發行）

#### ▲こどもの集團遊び（上巻）

「……私の耳にたへずせまつて来る若い保母の聲——それは講習會の集團遊びに對してあんなものをもちと覺えたい。せめて本でも——といふ切なる聲——家族の者が休んで靜かな夜がくると——保母さん方の姿が、聲が切々と私の心を搖り動かします、私はへとくになつた身體でこの原稿を書きつけました。」著者序文抜粋（何よりもこの本を貰ひいて流れる著者の情熱は實はねばなるまい。）（定價一五〇圓・片井商會發行）

んでいる。その他「絶対にそう云う機會を避ける」「ふだんやかましく云う」などがあつた。斯うした點で、両親の不自然な辱恥心と態度とが子供の興味を倍加させるのではあるまいかと思われる。

(9) 下品な言葉（わいせつ）に對しては——「云つてはならぬと叱る」が五七・一%、「それに代る言葉を教える」が二六・二%で、未経験の母親に於ても同様の率を示していた。但し下品な言葉の内容を、調査し得なかつたのは手落であつた。

(10) その他更に意見を述べた者は四〇・二%の親達に見られたが、(a)消極的にと云うもの、例えば「無理に教えない」「美しく話す」「他から教えられぬ様にする」などが半数以上、(b)積極的にと云うもの、例えば「知らせてよいことはほとんど知らせる」などが五分の一、(c)その他「教育法の指導」に關するものが四分の一あつた。

## 五、結 論

(一) 五、六歳の幼児を持つ両親はその半数に於て性教育に關心を有し、その半数以上に於て具體的な経験を有するものと。

(二) それら経験に際して取られた態度は、「かくす」「ごまかす」「おどす」「作り話をする」「口やかましく云う」が大部分である。

(三) 且人類に極めて大切な尊い性の現象を（三頁）讀く

乃至八時半。在園時間、四時間乃至五時間半。

### 屋外遊戲

男女とも週休日ともに戸外遊戲に従事するもの一〇〇%。男児は一日一時間乃至四時間、女児は一時間乃至三時間。男児には週日の午前中は登園時間迄にほんの少數が戸外で遊んでいるものがあるが、其他には幼稚園登園のため午前中には戸外遊戲なし。午後は男児は一時頃から二五%位が戸外に現われ、二時頃が五〇%弱、其後四時頃迄三〇%内外、五時頃十%以下に減少する。前記の五、六歳児と比較して可なり減少している。女児の場合の減少は更に著しい。休日には男女とも朝六時頃から始まり正午前後一時間位減少し其後夕食まで續くが四時頃が最高で七歳の子供の四〇%弱が其時刻に戸外で遊んでいる。

屋内遊戲 男児の場合週日に五三%、休日に七五%、各一時間位が従事している。女児は週日に八〇%、休日に一〇〇%が一時間半乃至二時間従事している。男児の場合は六歳児と比較して、週日の午前の幼稚園在園時間中を除いては、殆んど増減がないが、女児の場合は屋外遊戲は六歳児と比較して著しく減少しているのに對して、屋内遊戲は可なり増加している。男女とも後四、五時頃が最も盛んで、女児は其頃四〇%、男児は三〇%を示している。遊戲性外出、男女とも大體三〇%のものが一時間乃至一時間半位、休日には一時間乃至二時間半位、公園に行つたり、散歩に行つたり、又は紙芝居を見に行つたりしている。

### 繪本を見る

男児は週日に二六%、休日に十三%、女児は

週日に二〇%、休日に六〇%が此活動に従事している。大體三十分程度で夕食前後が多い。工作は二〇%内外で一時間位のモードになつてゐる。

園らん 四〇%乃至五〇%の男女児が夕食後三〇分位の園の時間を持つてゐる。此調査ではラジオをきくが此年齢で始めて登場している。手傳い、三〇%以上の子供が食事の前後三十分乃至一時間の手傳いに従事している。

### 遊戲種類

最後に此調査で見られた各年齢の子供の従事する遊戲活動の種類を、従事者數の多いものから順次表にして示すと左記の通り。尙參考の爲小學校一年の兒童の遊戲活動種類を、同じく筆者らの行つた調査から取つて比較することにした。

(五頁より)かくの如く、故意に「下品」「くだらない」「いけない」「きたないこと」と歪めて考へてゐること。

(四) その原因として、両親殊に母親が、性現象に對する正しい知識に乏しいのではないかと云うこと。即ち母親に對する性教育の缺乏が推察される。

(五) 然し、次第に両親の眞面目な問題となりつゝあり、その具體的な指導を欲していること。而して後、

(六) 幼児期より正しい性教育の方法が考えられねばならぬこと、などが云われる。更に具體的な研究を進めて居る。